

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	鹿児島県
-------	------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	出水市立出水小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	20
児童数	69	74	69	69	73	75	3	432	

研究の概要

1. 研究主題

基礎的・基本的内容の確かな定着を図るためのきめ細かな指導はどうあればよいか
 ~国語・算数科の指導を通して~

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

実施学年 全学年
 教 科 国語・算数
 選択理由 日常生活や他教科の学習につながりが深く、基礎・基本の定着に
 欠かせない教科であるため。

(2) 年次ごとの計画

平成
15
年度

[テーマ]
 基礎的・基本的内容の確かな定着を図るためのきめ細かな指導はどうあれば
 よいか
 ~国語・算数科の指導を通して~

[仮説]
 授業において、習熟度別指導などによる指導形態や指導体制を工夫し、
 可能な限り個に応じた指導をするとともに、業間の活用や家庭との連携
 を図り、振り返り学習を充実するならば、基礎的・基本的内容が定着す
 るのではないかと。
 教科指導において、到達目標及び評価規準を作成・評価し、個に応じ
 た指導に生かしていくならば、基礎的・基本的内容が定着するのではな
 いか。
 教科の指導計画に習熟の時間を位置づけ、補充的教材や発展的教材を
 作成して活用を図るならば、基礎的・基本的内容が定着するのではな
 いか。

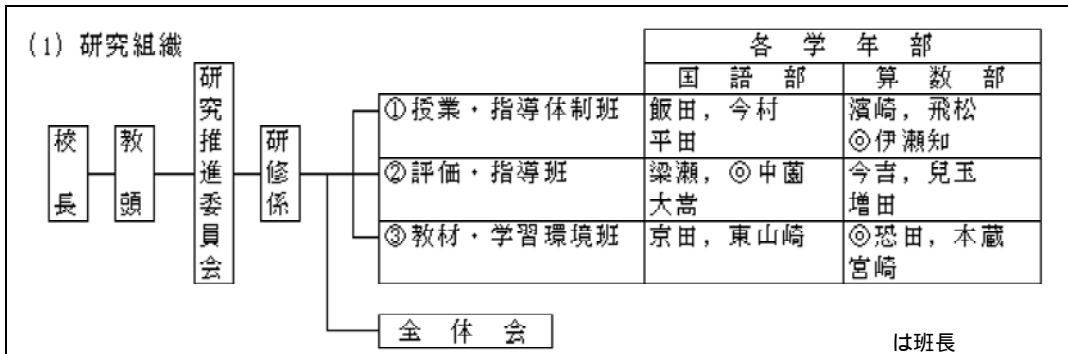
[研究の内容・方法]
 授業と指導体制の工夫
 習熟度別指導、TT、少人数指導など指導形態や指導体制に関すること
 ・複数教師による効果的な指導法
 ・業間「基礎基本の時間」の活用
 学習過程など授業改善に関すること
 ・授業の3ポイントの徹底(算数においては過去の校内研究の成果を発
 展させる)
 家庭との連携に関すること
 ・家庭学習を充実させるための「家庭学習の手引き」の作成と活用
 評価と指導の工夫

	到達目標・評価規準表の作成に関すること ・教科書会社のものなどをもとにした評価規準や到達目標の作成 評価規準を生かす評価方法に関すること ・授業のどこでどのように評価をするか、どう活用するか の明確化 学習のしつけに関すること ・姿勢、挙手・発表の仕方、話型（本校既成のものを見直し活用） 教材・学習環境の工夫 補充的教材の開発・作成に関すること ・基礎的・基本的内容を定着させるための補助教材の作成 発展的教材の開発・作成に関すること ・基礎基本をもとにした習熟を図るための発展的教材の作成 学習意欲を喚起する教室設営に関すること ・作成した教材を活用するための管理法や各教室の学習コーナーの設置
--	--

平成 16 年度	<p>[テーマ] ・15年度に同じ</p> <p>[研究の見通し] ・15年度の取り組みを通して得られた成果と課題に対し、成果についてはさらに日常化を図りつつ、課題については仮説を修正し、検証していく。</p> <p>[研究の内容・方法] ・15年度の内容・方法についての見直しと工夫・改善 ・検証授業の積み上げ ・実態調査の実施、分析、活用 ・研究冊子及び資料の作成 ・研究公開</p>
----------------	--

* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制



(2) 組織の運営にあたって

研究推進委員会

校長、教頭、教務主任、研修係、各研究班長、国語・算数主任で構成し、各研究班の仮説やその検証法、活動の推進状況などを審議し、研究全体の運営の核となる。（共通実践事項のまとめ、学習環境作り、研究紀要の作成、研究公開の企画など）

研修係

ア 研究推進にあたっての、中心的役割を果たす。

イ 各研究班長と連絡を取りあい、班内の仕事の内容や進み具合を全職員が把握できるように手立てを講ずる。

ウ 研究推進委員会の話し合いを受けて、各部間の連絡調整を図る。

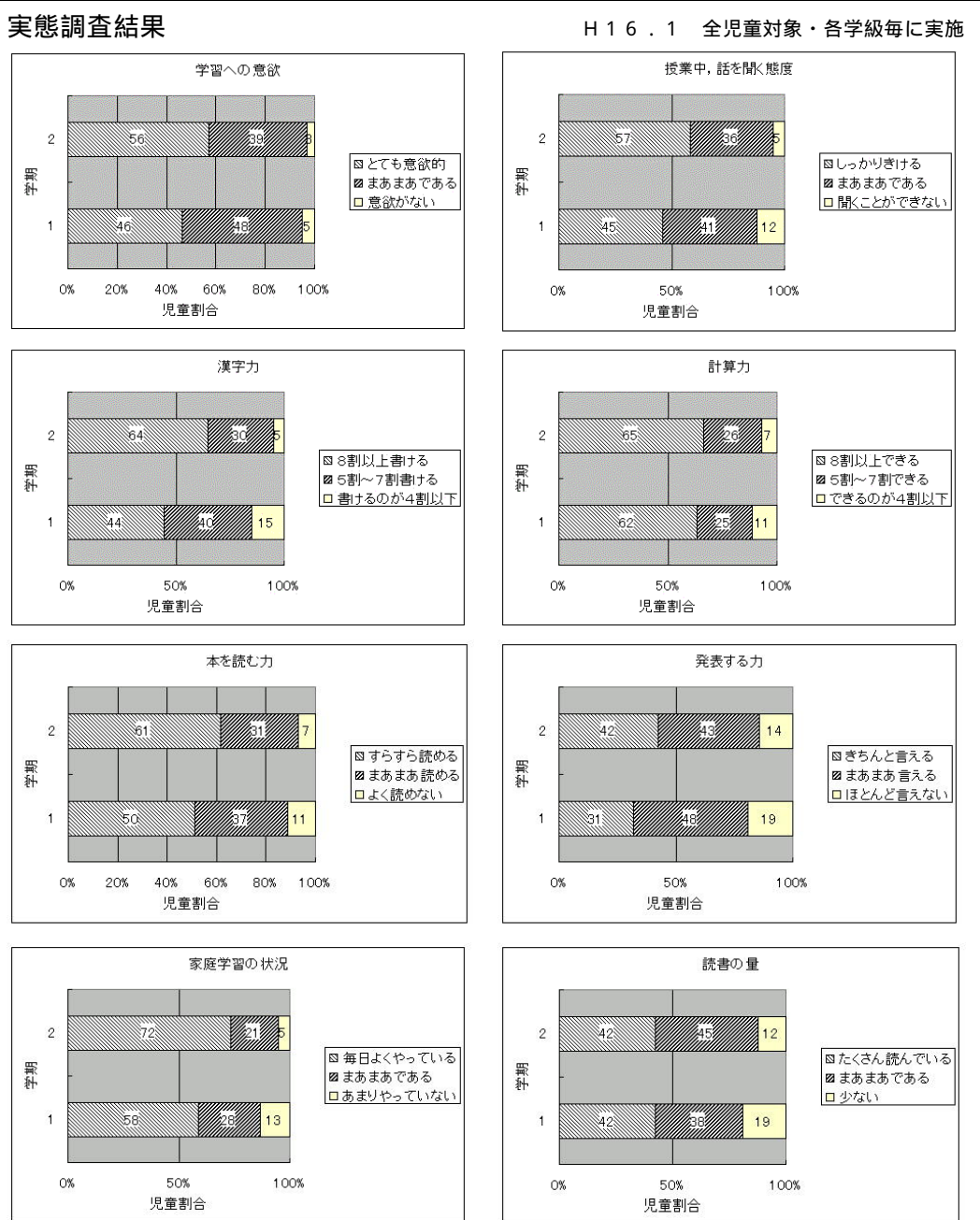
各研究班

ア 研修係と共に研究理論を深めるための中心となる。

イ 成果の期待される検証をするために、必要な予備調査等を行い、仮説に基づいた独自の検証法を提案し、実践を進めるとともに、適宜必要な修正を図りながら研究を深める。検証の前後における児童の変容をデータとして確実にとらえ、その情報の公開に努めるとともに、得られたデ

- ータから成果をまとめる。
- ウ 輪番で授業研究の準備，進行等の段取りをする。
- 各教科部
- 各研究班に属する立場から各教科に関する内容を中心に研究を進める。
- 指導法改善係
- ア 研究理論を実践するための核となる。
- イ 基礎学力の時間（業間）の指導計画作成と使用する教材を作成する。
- ウ 各学級・学年と連携し，指導形態や体制の工夫など各研究班の仮説に基づいた習熟度別指導等を各学年と連携して実際に推進する。

平成15年度の研究成果及び今後の課題
1. 研究成果



CRT学力検査の実施前であり，各教科毎の詳細データ収集はまだこれからである。しかし，主題である「基礎的・基本的内容の定着」に関連する要素としてあげたグラフに示す視点から，これまでの実践研究による成果を示す。

- ・ 学習意欲の「とても意欲的」、漢字力の「8割以上書ける」、本を読む力の「すらすら読める」の割合がいずれも10%以上向上したことは、習熟度に応じた学習形態など指導法の改善や、小テストなどの教材の活用、音読等の個別指導、保護者による声かけやチェックの協力によるものと思われる。
- ・ また聞く態度の「しっかり聞ける」や発表する力の「きちんとと言える」の割合がいずれも10%以上向上したことは、学習のしつけの指導が進んだことによると考えられる。
- ・ さらに家庭学習の状況の「毎日よくやっている」とする割合が向上してきたことは、宅習カードなどを活用した見届けができてきたことや「家庭学習のしおり」などによる学校から家庭への働きかけと共に、保護者によるチェックなどの協力が充実してきたことによるものと考えられる。
- ・ 一方発表する力や読書の量で「ほとんど言えない」や「少ない」の割合が2学期後も10%を越えていることから、今後こうした子供たちに対しさらに意図的指名をするなどきめ細かな指導を進めていく必要があると考える。

2. 今後の課題

研究成果を日頃の授業に反映させながら授業をさらに充実させる
 複数教師による習熟度に応じた指導をさらに充実させる
 習熟度コース別指導における、効果的なコース選択のあり方
 国語における効果的な補充・発展的な学習の進め方とその評価法
 評価規準と評価基準を合わせた評価計画の作成と活用法
 補充や発展の教材作成と蓄積
 生活の在り方まで含めた視点から家庭学習の充実を図る手立て

学力等把握のための学校としての取組

習熟度コース別指導前のプレテストの実施
 評価規準に基づいた評価記録簿の作成と活用
 ワークシートやポストテストの作成と活用
 児童による授業評価
 教師自身による授業評価

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

校内のPTA集会時に、学校長が保護者に対し紹介・説明。
 学級PTA等で各担任が保護者に対しパンフレットをもとに紹介・説明。
 地区教頭研修会による取り組みの発表
 市基礎学力フォーラムにおける取り組みの発表
 研究冊子の作成と配布

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無